

一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 9

余 小 路 遺 跡 (2)

2008年3月

国土交通省中国地方整備局
島根県教育委員会

一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書9

余 小 路 遺 跡 (2)

2008年3月

国土交通省中国地方整備局
島根県教育委員会

序

国土交通省中国地方整備局松江国道事務所では、出雲市内の一般国道9号の慢性的な交通渋滞を緩和するため、出雲バイパスの建設を進めてきました。

出雲バイパスの整備に際しては、埋蔵文化財の保護に十分留意しつつ整備計画や工法の検討を行っていますが、どうしても回避することのできない埋蔵文化財については道路事業者の負担により必要な調査を実施し、記録保存を行っています。具体的には、鳥根県教育委員会に委託し、平成8年度から出雲バイパス建設予定地内で発掘調査を進めていただきましたが、今年度の余小路遺跡の発掘調査をもって全て終了することができました。道路事業計画との調整を図りつつ、十分な調査を進めていただいたことに対し、同委員会の御尽力に敬意を表する次第です。

この報告書は平成19年度に実施しました出雲市松寄下町地内に所在する余小路遺跡の発掘調査成果をとりまとめたものです。本書が、この地域における人々の暮らしやそれを取り巻く自然の営みを後世に伝える貴重な資料として、学術並びに教育のために広く活用されることを期待します。

最後に、当所の事業に御理解、御支援いただき、本埋蔵文化財発掘調査及び調査報告書の編纂に御協力いただきました地元の方々や関係機関の皆様に対し、深甚なる謝意を表するものであります。

平成20年3月

国土交通省中国地方整備局松江国道事務所

所長 越智健吾

序

島根県教育委員会では、国土交通省中国地方整備局から委託を受けて、平成8年度より一般国道9号出雲バイパス建設予定地内の埋蔵文化財発掘調査を行っております。この事業は平成18年度をもって一旦終了いたしましたが、今回の発掘調査は道路計画の一部変更に伴って出雲市松寄下町地内の余小路遺跡について追加調査したものです。

余小路遺跡は、これまでの調査により室町時代後半から江戸時代初めの建物跡や古墓が明らかとなっていた集落遺跡です。今年度はその東側及び西側に当たる地点で調査を行ったところ、護岸施設を伴う水路と見られる大形の溝が確認されました。今回の調査では、中世末から近世初めに営まれた集落跡周辺部の様相が明らかになったにすぎませんが、こうした成果の積み重ねが岡山市並びに島根県の豊かな地域史像の構築に繋がるものと考えております。

最後になりましたが、発掘調査及び本報告書の刊行に当たりご協力いただきました国土交通省中国地方整備局松江国道事務所をはじめ、地元の方々並びに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成20年3月

島根県教育委員会

教育長 藤原義光

例　　言

1. 本書は島根県教育委員会が国土交通省中国地方整備局松江国道事務所の委託を受けて、平成19年度に実施した一般国道9号（出雲バイパス）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の記録である。

2. 本書で報告する遺跡は次のとおりである。

島根県出雲市松寄下町654-10番地ほか 余小路遺跡

3. 調査組織は次のとおりである。

事務局 卜部吉博（埋蔵文化財調査センター所長）、坂本憲一（同総務G課長）、広江耕史（同調査第3G課長）、赤山 治（同総務G企画幹）

調査員 角田徳幸（同調査第3G主幹）、園山暢男（同教諭兼文化財保護主任）、井谷朋子（同調査補助員）

4. 発掘作業（発掘作業員雇用・重機借り上げ・発掘用具調達等）については、島根県教育委員会から社団法人中国建設弘済会へ委託して実施した。

高橋憲生（社団法人中国建設弘済会技術員）、寺戸由美子

5. 現地調査及び資料整理にあたっては坂根健悦氏（川喜市文化財課）の御協力を賜った。

6. 本書のうち、押図中の北は測量法による平面直角座標系XY座標（日本測地系）、第Ⅲ座標系のX軸方向を指している。

7. 本書に掲載した実測図の作成と写真は調査員・補助員が行い、写真は角田徳幸が撮影した。

8. 本書の執筆と編集は角田徳幸が行った。

9. 本書に掲載した遺物及び実測図・写真などの資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターで保管している。

目 次

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の位置と環境	2
第3章 遺跡の概要	
第1節 これまでの調査	5
第2節 2007年の調査	6
第4章 III区の調査	
第1節 層序と遺構の配置	9
第2節 溝状遺構	10
第3節 ピット・土器窓	11
第5章 IV区の調査	
第1節 層序と遺構の配置	13
第2節 溝状遺構	14
第3節 上坑	14
第4節 遺構に伴わない遺物	18
第6章 総 括	19
出上遺物検索表	20

挿図目次

第1図	余小路遺跡と周辺の遺跡	3
第2図	余小路遺跡の位置	4
第3図	I区遺構配置図	5
第4図	調査区配置図	7~8
第5図	III区遺構実測図	9
第6図	III区1~3号溝遺構実測図	10
第7図	III区1号溝出土遺物実測図	11
第8図	III区P. 1~6遺構実測図	12
第9図	III区P. 1・P. 5出土柱根実測図	12
第10図	III区土器溜出土遺物実測図	12
第11図	IV区遺構実測図	13
第12図	IV区4号溝遺構実測図	15
第13図	IV区5~7号溝・6号土坑遺構実測図	16
第14図	IV区5号溝・6号土坑出土遺物実測図	17
第15図	IV区1~5号土坑実測図	18
第16図	IV区遺構に伴わない遺物実測図	18

表目次

第1表	一般国道9号出雲バイパス建設予定地内遺跡発掘調査一覧	1
第2表	余小路遺跡出土陶磁器構成表	19

図版目次

図版1	1 空から見た出雲平野
図版2	1 調査地近景 2 調査地近景
図版3	1 III区近景 2 III区調査後
図版4	1 III区1号溝検出状況 2 III区1号溝
図版5	1 III区1号溝調査区北壁上層 2 III区1号溝中央土層 3 III区1号溝唐津(第7図1)出土状況

- 図版6 1 III区1～3号溝検出状況
2 III区1～3号溝
- 図版7 1 III区3号溝
2 III区3号溝
3 III区2・3号溝
- 図版8 1 III区2・3号溝調査区北壁土層
2 III区2・3号溝中央上層
3 III区土器溜遺物出土状況
- 図版9 1 III区P. 1～P. 5
2 III区P. 1・P. 2
- 図版10 1 III区P. 3～P. 6
- 図版11 1 IV区調査後
2 IV区調査後
- 図版12 1 IV区北壁土層
2 IV区北壁土層
- 図版13 1 IV区4号溝検出状況
2 IV区4号溝
- 図版14 1 IV区4号溝北側土層
2 IV区4号溝南側土層
- 図版15 1 IV区5～7号溝検出状況
2 IV区5・6号溝
- 図版16 1 IV区5号溝北側土層
2 IV区5号溝中央上層
3 IV区5号溝南側土層
- 図版17 1 IV区5号溝第14図2・6他出土状況
2 IV区5号溝第14図1出土状況
3 IV区5号溝第14図4出土状況
- 図版18 1 IV区6号溝検出状況
2 IV区6号溝
3 IV区6号溝上層
- 図版19 1 IV区1～5号土坑
- 図版20 1 IV区6号土坑検出状況
2 IV区6号土坑
3 IV区6号土坑第14図5出土状況
- 図版21 1 III区1号溝出土遺物
2 III区土器溜出土遺物
- 図版22 1 IV区5号溝・6号土坑出土遺物
2 IV区遺構に伴わない遺物

第1章 調査に至る経緯

一般国道9号出雲バイパスは、出雲市内の交通渋滞緩和を目的に計画されたものである。路線は島根県斐川町富村から出雲市高松町までの8.2kmで、平成19年12月に全線が開通した。

島根県教育委員会では、この事業に伴い建設省松江国道工事事務所（当時）と協議を行い、平成8～10年度に出雲市姫原町地内の姫原西遺跡、小山町地内の藏小路西遺跡、渡橋町地内の渡橋沖遺跡の発掘調査を実施した。その後、出雲バイパス建設地内の埋蔵文化財発掘調査は一時中断したが、平成13～18年度にかけて出雲市中野町地内の中野美保遺跡・中野清水遺跡、大津町地の大津町北遺跡、白枝町地内の白枝本郷遺跡、松寄下町地内の余小路遺跡、天神町地の小畠遺跡を順次調査して、埋蔵文化財調査は一旦終了した。

ところが、平成19年度になって余小路遺跡地内で出雲バイパスと市道が交差する部分に自転車道が建設されることとなり、国土交通省は島根県教育委員会文化財課、出雲市文化財課と協議を行った。年度中途の協議であり県と出雲市は対応に苦慮したが、開通予定が迫っていたことや事業の公共性から早急な調査が必要という結論に達し、島根県教育委員会が当該地点の発掘調査を実施することになった。

調査は平成17年度調査区の北東側及び北西側の2地点で、計500m²を対象として行い、調査期間は平成19年6月11日から7月5日であった。

第1表 一般国道9号出雲バイパス建設予定地内遺跡発掘調査一覧

遺跡名	調査年度	遺跡の内容	報告書(刊行年)
姫原西遺跡	平成8・9年度	集落跡(弥生～室町)・古墓(室町)	『一般国道9号出雲バイパス1』(1999)
藏小路西遺跡	平成8・9年度	集落跡(縄文～古墳)・範跡(室町)	『一般国道9号出雲バイパス2』(1999)
渡橋沖遺跡	平成9・10年度	集落跡(室町)	『一般国道9号出雲バイパス3』(1999)
中野美保遺跡	平成13・14年度	墳墓(弥生)・集落跡(奈良・平安)	『一般国道9号出雲バイパス4』(2004)
	平成14年度	集落跡(弥生・占墳)	『一般国道9号出雲バイパス5』(2004)
中野清水遺跡	平成15年度	集落跡(弥生・古墳)・生産遺跡	『一般国道9号出雲バイパス6』(2005)
	平成15・16年度	集落跡(弥生・古墳)・生産遺跡	『一般国道9号出雲バイパス7』(2006)
大津町北遺跡	平成14年度	集落跡(弥生・占墳)	『一般国道9号出雲バイパス5』(2004)
白枝本郷遺跡	平成15・16年度	集落跡(古墳～江戸)・古墓(室町～江戸)	『一般国道9号出雲バイパス7』(2006)
余小路遺跡	平成16・17年度	集落跡(室町～江戸)・古墓(江戸)	『一般国道9号出雲バイパス8』(2007)
小畠遺跡	平成18年度	集落跡(弥生)	『一般国道9号出雲バイパス8』(2007)
余小路遺跡	平成19年度	集落跡(室町～江戸)	本書

※ 一般国道9号出雲バイパスは『一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』の略。

第2章 遺跡の位置と環境

余小路遺跡は、出雲平野の西部、神戸川右岸の沖積平野に位置し、島根県出雲市松寄下町654-10番地ほかに所在する。松寄下町は現在では出雲市に属するが、これは1953（昭和28）年に出雲市が成立して以降のことである。「大保郷帳」（1834年）には神門郡松寄下村と見え、1889（明治22）年の町村制施行時には神門郡高松村となったところである。

周辺の地形は神戸川が形成した三角州が広がっており、出雲市古志町から高松町付近には南東から北西方向へと延びる自然堤防が見られ、松寄下町付近では標高4m前後の高さがある。余小路遺跡の北東200mの地点にある白枝本郷遺跡で行った地質調査によれば、標高-4.0～0m付近は三瓶火山由来のディサイト円錐を含む粗砂が厚く堆積しており、遅くとも縄文時代後期には『出雲国風土記』に記された神門水海と考えられる潟湖のような水域からは分離していたと見られる。また、標高0mから上層は細砂またはシルトで、河川の流路変遷が頻繁に起こるような後背湿地に変化しており、付近で集落の基盤となる微高地の形成が進んだことが窺える⁽¹⁾。

余小路遺跡の周辺では、出雲平野の各地に一齊に集落が広がる弥生時代中期中葉～後葉頃から遺跡が展開することが分かっており、白枝本郷遺跡・白枝荒神遺跡・井原遺跡・小畠遺跡が知られる。このうち、白枝荒神遺跡は土器の出土量も多く占墳時代前期前半までの遺構・遺物⁽²⁾、また、井原遺跡では弥生時代中期のものは少ないが後期後葉から古墳時代前期・中期の遺構・遺物が確認されており⁽³⁾、両遺跡とも集落が安定して営まれている。余小路遺跡でも弥生時代中期後葉から古墳時代前期の土器が僅ながら出土していることから、この時期には小集落が存在したことが想定されよう⁽⁴⁾。古墳時代後期になると、白枝本郷遺跡では灌漑用の大形溝が確認されている。溝の中では馬の歯が出土し牛馬耕が行われていた可能性も考えられ、本格的に沖積平野の開発が進んだものと思われる⁽⁵⁾。

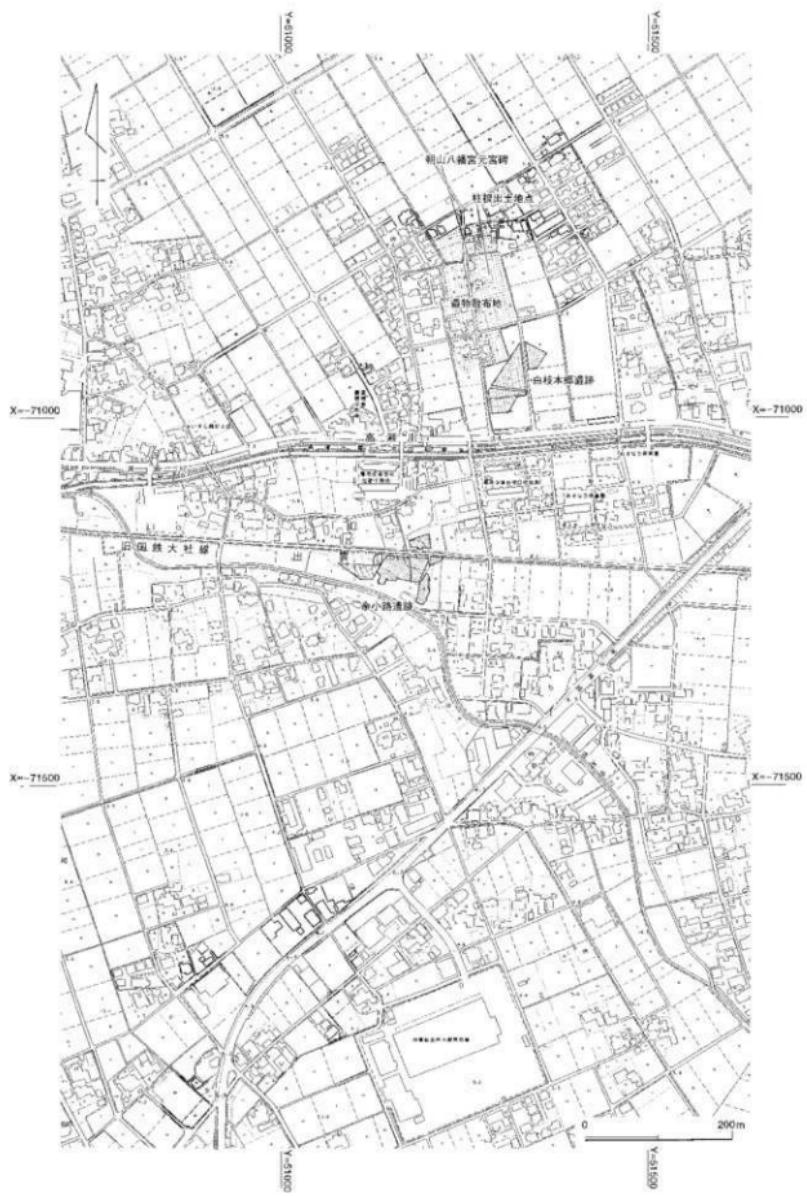
余小路遺跡が所在する地域は、中世においては神門郡朝山郷に含まれるものと見られ、国衙在所官人の系譜をひく朝山氏が基盤とするようになる。朝山氏は12世紀後半から15世紀前半まで蔵小路西遺跡を館としており、一町四方の大溝で囲まれた方形居館が発掘調査によって明らかになっている⁽⁶⁾。15世紀に朝山氏が拠点を京都へと移した後は下朝山は室町幕府の直轄領となり、塙治氏の下で三木氏が朝山郷を支配し、蔵小路西遺跡に隣接する位置に居館を営んだ。余小路遺跡はこうした朝山郷の支配拠点からは西に離れた位置にあるが、17世紀までは朝山八幡宮が白枝本郷遺跡の北側にあったとされており、付近では柱根が出土したのをはじめ、青磁・青花・瀬戸・備前など室町時代の遺物を採集している⁽⁷⁾。

余小路遺跡では室町時代後半から江戸時代初めにかけて掘立柱建物跡や古墓などが営まれるが、この頃の遺構・遺物は白枝本郷遺跡と寺子田遺跡でも明らかになっている。このうち、白枝本郷遺跡では掘立柱建物跡5棟・古墓3基・井戸跡10基、道の他、鳥形木製品や笠などが出土した祭祀遺構も検出された⁽⁸⁾。掘立柱建物跡は梁行1間・桁行3～4間で長檜円形の柱穴をもつものであり、余小路遺跡の掘立柱建物跡と構造がよく類似している。また、古墓は白枝本郷遺跡・余小路遺跡の他にも寺子田遺跡⁽⁹⁾・姫原西遺跡⁽¹⁰⁾・角田遺跡⁽¹¹⁾でも確認され、被葬者の埋葬姿勢や副葬品などに共通性が見られることから、この時期に一定の埋葬方式があったことが窺える。



- | | | | | | |
|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|-----------|
| 1 余小路遺跡 | 2 白枝本郷遺跡 | 3 中野美保遺跡 | 4 鹿原西遺跡 | 5 豊小路西遺跡 | 6 渡橋沖遺跡 |
| 7 小郷遺跡 | 8 山持遺跡 | 9 里方須所遺跡 | 10 甲方八石原遺跡 | 11 西浜Ⅰ遺跡 | 12 窓浜Ⅱ遺跡 |
| 13 烏岡遺跡 | 14 萩松遺跡 | 15 中野西遺跡 | 16 太歳遺跡 | 17 大根遺跡 | 18 矢野遺跡 |
| 19 小山遺跡第1地点 | 20 小山遺跡第2地点 | 21 小山遺跡第3地点 | 22 井原遺跡 | 23 白枝荒神遺跡 | 24 七田川遺跡 |
| 25 海上遺跡 | 26 久善遺跡 | 27 高西遺跡 | 28 雅ヶ森遺跡 | 29 岩山古墳 | 30 大念寺古墳 |
| 31 角川遺跡 | 32 上塙治塗山古墳 | 33 神門寺境内開寺 | 34 葦山遺跡 | 35 地藏山古墳 | 36 下分古墳 |
| 37 上塙治横穴墓群 | 38 三谷工遺跡 | 39 光明寺古墳群 | 40 駄山古墳群 | 41 放れ山古墳 | 42 妙蓮寺山古墳 |
| 43 古志木郷遺跡 | 44 下古志遺跡 | 45 田畠遺跡 | 46 家塙古墳 | 47 知片宮多摩院遺跡 | 48 神門機穴墓群 |
| 49 保新石道跡 | 50 洋耕Ⅱ遺跡 | 51 北光寺古墳 | 52 山連吉墳 | 53 九里川遺跡 | 54 玉泉寺遺跡 |
| 55 開谷東古墳群 | | | | | |

第1図 余小路遺跡と周辺の遺跡



第2図 余小路遺跡の位置

第3章 遺跡の概要

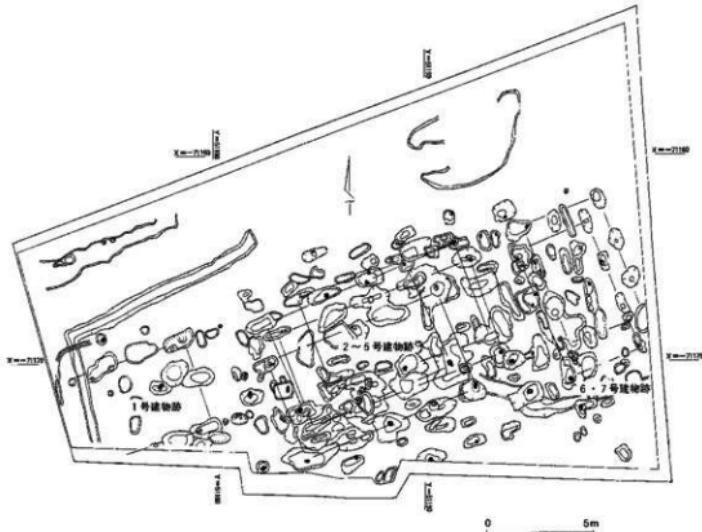
第1節 これまでの調査

余小路遺跡は出雲バイパス建設に伴うトレンチ調査によって確認された遺跡である。島根県教育委員会では2004（平成16）年度及び2005（平成17）年度に出雲バイパス建設地内の発掘調査を行っており、室町時代から江戸時代初めの掘立柱建物跡・古墓・溝状遺構などを検出した⁽¹⁾。また、出雲市文化財課は付近を流れる塩治赤川が出雲バイパスの建設により改修されるのに伴って2006（平成18）年度に発掘調査を行い、江戸時代の古墓などを確認している。

調査区は旧国鉄大社線である山道を挟んで南北に広がり、北側の2004年調査区をI区、南側の2005年調査区をII区とした。2007年度の発掘調査区はII区の東側と西側に位置しており、前者をIII区、後者をIV区と呼称した。また、出雲市の調査区はII区の南東側と西側に当たる。

2004年の調査（I区） 室町時代から江戸時代初めの掘立柱建物跡7棟以上、溝6条が確認された。掘立柱建物跡は柱穴の重複が著しいため配置状況には不明な点があるが、1号建物跡と2～5号建物跡は東西方向に主軸をもち、6・7号建物跡は南北方向に主軸をもつものと見られる。建物の規模は1号建物跡は梁行1間・桁行2間以上であることが分かり、2～5号建物跡と6・7号建物跡は梁行1間・桁行3～4間程度の建物跡で柱の位置をやや変えながら何度も建て替えられたと考えられる。柱穴はいずれも長楕円形で大きく、柱根が残存するものが多数認められた。

出土遺物には中国青磁・白磁・青花、朝鮮白磁、備前、瀬戸、美濃、土師質土器の他、五徳・鉄斧・刀子などの鉄製品、簪・分銅・北宋銭・明錢などの銅製品がある。この中で注意されるのは分



第3図 I区遺構配置図

銅と、銅錢10枚が溶着したものが含まれることで、遺構外では銅精錬に関わる金属滓が出土していることから、銅製品の加工が付近で行われていた可能性が考えられる。

2005年の調査（Ⅱ区） 江戸時代前半の掘立柱建物跡4棟・古墓13基の他、溝15条・土坑39基が確認されている。掘立柱建物跡は調査区の中央部に営まれており、東西方向に主軸をもつ建物跡が重複する。8号建物跡は梁行1間・桁行4間で南北に縁または廻がつくもので、9号・10号建物跡は梁行1間・桁行3間、11号建物跡は梁行2間・桁行3間である。掘立柱建物跡の周囲にはL字形に屈曲する溝が回っており、これらは建物を囲む区画溝と考えられる。

古墓は建物跡の東側を中心確認されている。いずれも木棺が納められたもので、棺には長方形または方形をしたものと、桶を横倒しにして据えたものの2種類が見られる。副葬品には銅錢と土師質土器皿を入れたものが多く、中には折敷・鋸・煙管が納められたものもあった。

なお、遺構は検出されていないが、楕円形鍛治溝も出土している。

2006年の調査（出雲市調査区） 2ヶ所の調査地点のうち、Ⅱ区の南東側に当たる地点のみでは古墓3基と溝4条が明らかになっているが、西側の地点は不整形な土坑や落ち込みが僅かに確認された程度である。Ⅱ区南東側調査区の古墓には長方形木棺が使われたものが2基あり、墓壙底には竹を筋交いに組んで敷いていた。副葬品としては数珠・櫛・火切臼・折敷・土師質土器皿が出土している。

この地点は2005年調査区（Ⅱ区）で古墓群が検出された地点の南側に当たっており、付近が墓域となっていたことが考えられる。

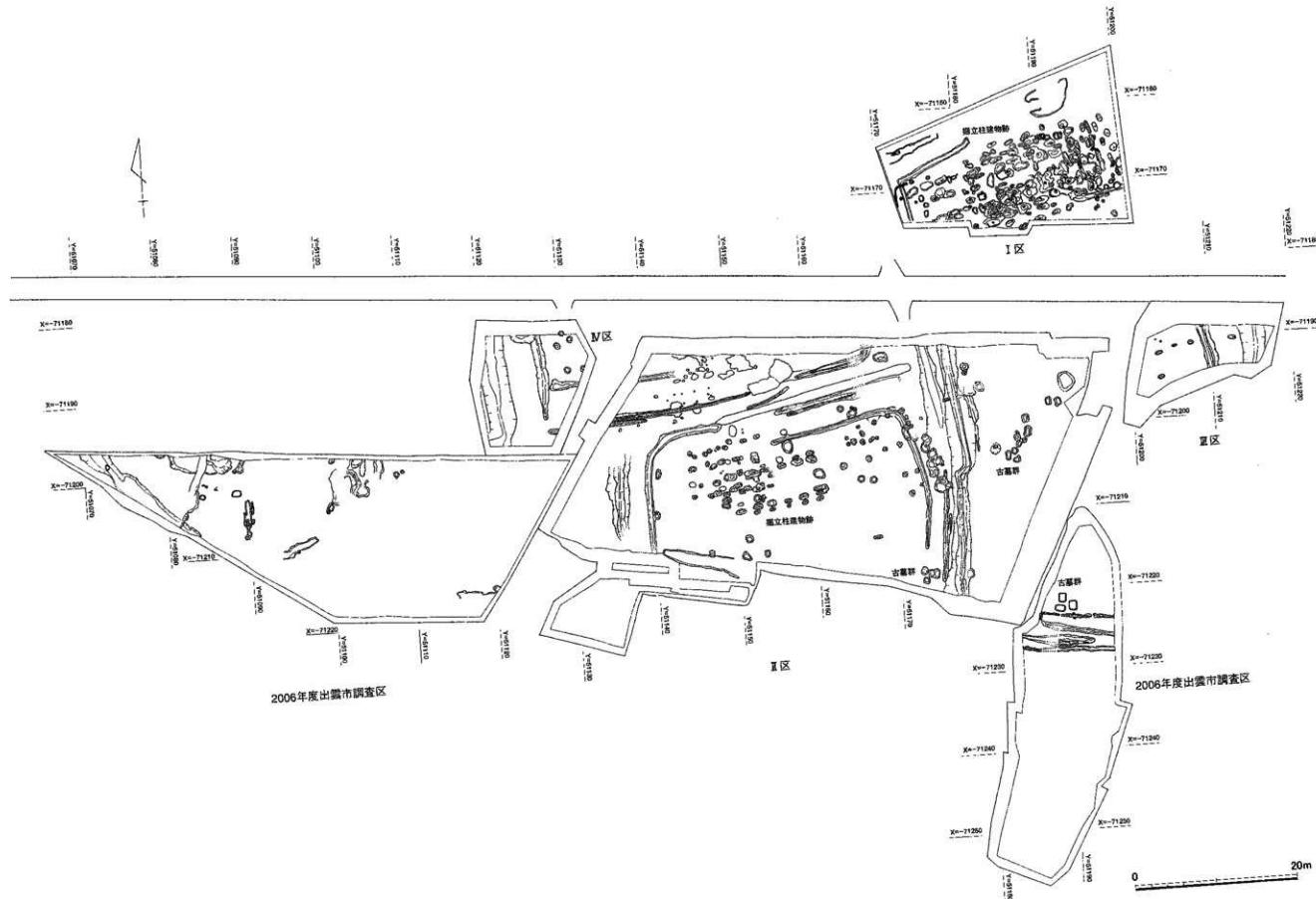
第2節 2007年の調査

これまでの調査により余小路遺跡はⅠ区付近が室町時代後半から江戸時代初めの居住域、Ⅱ区の中央部は江戸時代の初めに居住域となり、その東側に墓域が営まれたことが判明していた。また、実態は不明ながら銅精錬滓や鍛冶溝が出土していることから、付近で金属器の生産が行われていたことも想定される。

2007年度の調査区はⅢ区がⅡ区で確認された墓域の東側に当たり、Ⅳ区がⅡ区の居住域の北西側に位置する。Ⅲ区では古墓は検出されなかったが、掘立柱建物跡の一部と見られる柱穴や柱根が確認されており、この付近も居住域となっていた可能性が考えられる。また、調査区の東端で確認された南北方向に延びる溝は幅が広く杭で護岸が行われたもので、埋土の状況から水路であったことが考えられる。

Ⅳ区ではⅡ区から東西方向に走る溝の西端が確認されるとともに、その西側は南北方向に主軸をもつ溝があることも明らかになった。中でも調査区西端の溝は幅が広く、埋土の状況から水路と考えられる。また、調査区北端部では白枝木郷遺跡で確認されているような井戸と思われる大形土坑も見られた。

Ⅲ区及びⅣ区では掘立柱建物跡や古墓など集落の中心部であることを窺わせる遺構はほとんど見られなかったが、過去の調査では確認されていない大形溝が明らかとなった。限られた調査範囲の中で集落の全体像を復原することは困難ではあるが、これらの時期は江戸時代前半のものと考えられ集落と同時期であることから、水路であるとともに集落の東西を区画するような機能を有していたことも想定されよう。

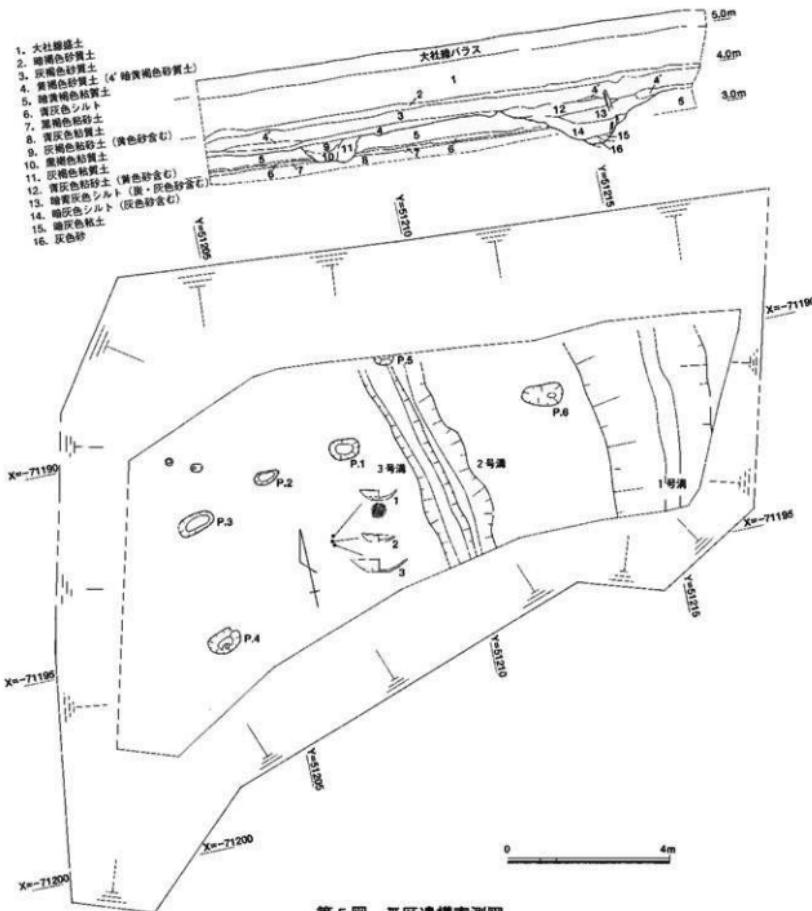


第4図 調査区配置図

第4章 III区の調査

第1節 層序と遺構の配置

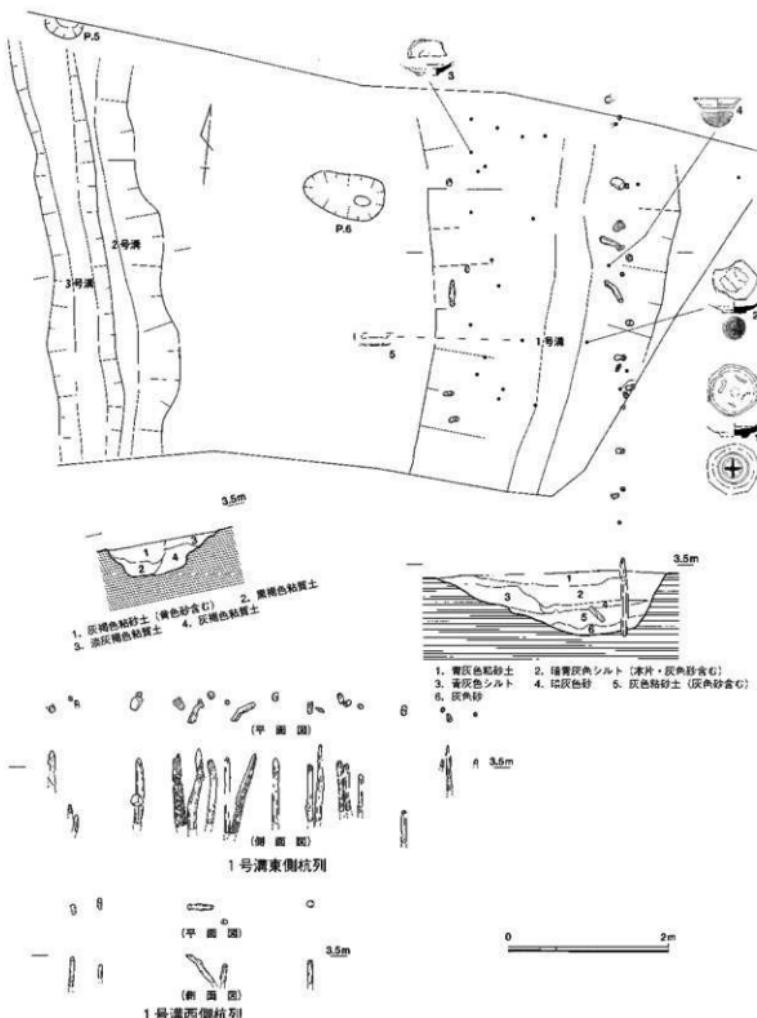
調査区の北壁は、最上層に大社線建設時の盛土があり、これを除去すると上層より暗褐色砂質土（2層）・灰褐色砂質土（3層）・黄褐色砂質土（4層）の順に堆積し、標高3.5m前後の暗黃褐色粘質土（5層）が遺構面となる。遺構は調査区の東端に1号溝、中央に2・3号溝が位置する。調査区の西側を中心としてピットも検出されており、柱根が残るものもあることから掘立柱建物跡と考えられるが、調査範囲内では建物の形状・規模を明確にはできなかった。



第5図 III区遺構実測図

第2節 溝状遺構

1号溝 南北方向へと延びるもので、検出した長さは5m・幅2.6~3.1m・深さ0.8~1.0mである。横断面形は東側の立ち上がりに比較して西側がやや緩く傾斜しており、斜面には両岸に杭が打ち込まれる。遺存状況が良い東側の杭列は5~40cm程度の間隔で打ち込まれ、長い杭は1m以上の長さがあった。溝の堆積土は、中央では上層より青灰色粘砂土（1層）・暗青灰色シルト（2層）・青灰



第6図 III区1~3号溝遺構実測図

色シルト（3層）・暗灰
色砂（4層）・灰色粘砂
土（5層）・灰色砂（6
層）の順に堆積する。ま
た、調査区北壁では上層
より順に青灰色粘砂土
(12層)・暗青灰色シルト
(13層)・暗灰色シルト
(14層)が見られるが、
溝の埋土としては最下層
である14層の下に暗灰色
粘土（15層）・灰色砂
(16層)が東へ傾斜して
堆積しており、東側に1
号溝に先行する溝があるものと考えられる。

出土遺物には唐津土と土師質土器・鉄製品がある。第7図1～3は唐津皿で、いずれも見込みに砂
目が残っており、1の高台内には「十」の墨書きがある。4は土師質土器皿で、口縁が短く外面底部
に静止系切りが見られる。5は薄手の鉄製品で、遺存状況が悪く種類は不明である。

2・3号溝 南北方向へ延びるもので、検出した長さは5m、3号溝の幅は0.7m、深さはともに
0.4～0.5mである。2号溝と3号溝はほぼ平行して當まれており、中央断面では2号溝の埋土である
淡灰褐色粘質土（3層）と灰褐色粘質土（4層）が3号溝の埋土である灰褐色粘砂土（1層）・
黒褐色粘質土（2層）によって切られ、調査区北壁では2号溝の埋土である灰褐色粘質土（11層）
が3号溝の埋土である灰褐色粘砂土（9層）・黒褐色粘質土（10層）によって切られていることか
ら、2号溝の後に3号溝が營まれたことが分かる。

出土遺物は見られなかった。

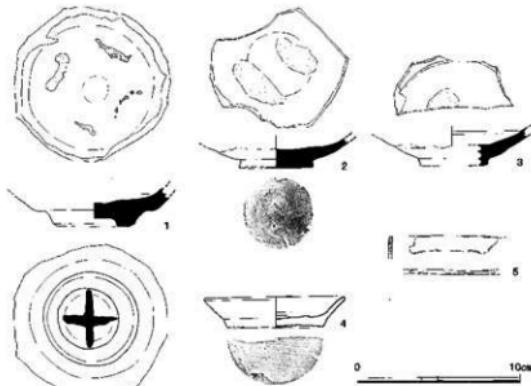
第3節 ピット・土器溜

P.1 開丸長方形をした柱穴で、長さ70cm・幅40～45cm・深さ25cmである。中央よりやや西
側に柱根が残っており、埋土は上層より暗灰褐色土（1層）・灰褐色土（2層）の順に堆積する。
柱根（第9図1）は現存長43.5cm・径13cmで、基部は先端が尖るように成形されており、加工痕が
顕著に残る。

P.2 不整な楕円形状をした柱穴で、長さ65cm・幅35cm・深さ20cmである。埋土は上層より暗
灰褐色土（1層）・灰褐色土（2層）の順に堆積する。

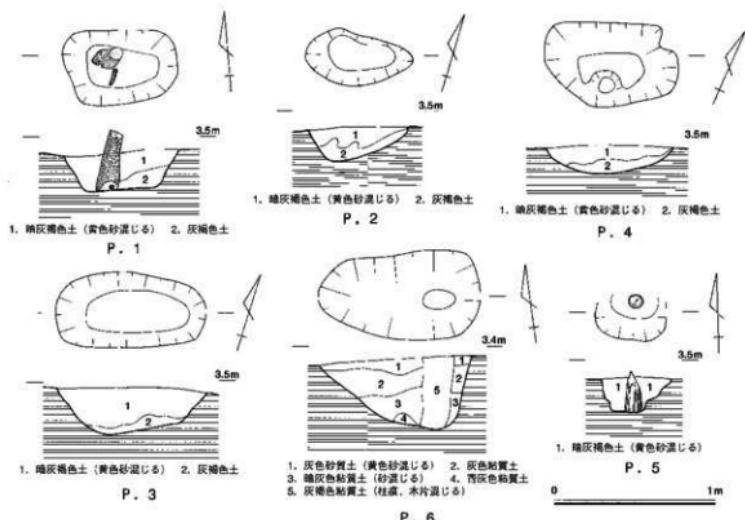
P.3 不整な楕円形状をした柱穴で、長さ94cm・幅48cm・深さ30cmである。埋土は上層より暗
灰褐色土（1層）・灰褐色土（2層）の順に堆積する。

P.4 不整な楕円形状をした柱穴で、長さ83cm・幅53cm・深さ18cmである。南辺沿いには柱痕
と見られる徑20cm・深さ15cmほどの凹みがある。埋土は上層より暗灰褐色土（1層）・灰褐色土
(2層)の順に堆積する。

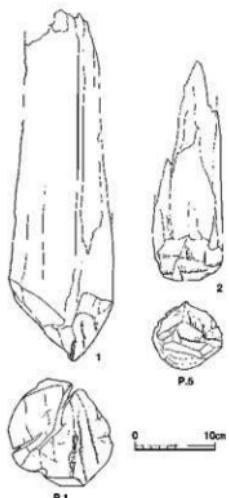


第7図 III区1号溝出土遺物実測図

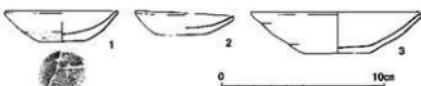
— 11 —



第8図 III区P. 1～6 遺構実測図



第9図 III区P. 1・P. 5
出土柱根実測図



第10図 III区土器溜出土遺物実測図

P. 5 開丸方形状をした柱穴で、長さ42cm・深さ22cmである。埋土は暗灰褐色土（1層）のみで、中央には柱痕が残る。柱根（第9図2）は現存長27cm・径9cmで、基部は先端が尖るように成形され加工痕が顕著に残る。

P. 6 不整な梢円形状をした柱穴で、長さ100cm・幅55cm・深さ45cmである。埋土は上層より灰色砂質土（1層）・灰色粘質土（2層）・暗灰色粘質土（3層）があり、西寄りに柱痕である灰褐色粘質土（5層）が見られる。

土器溜 調査区中央よりやや西側の地点で上師質上器皿3点がまとめて出土した。その状況から見て遺構に伴うものとも考えられるが、確認できなかった。

皿は大小2種類があり、第10図1と2は径6~7cm・器高1.5~2.0cm、3は径10.5cm・器高2.5cmである。いずれも口徑に対し底径が小さい器形をもっており、1は底部を回転軸切りで切り離した後、周囲に回転ヘラケズリを加える。

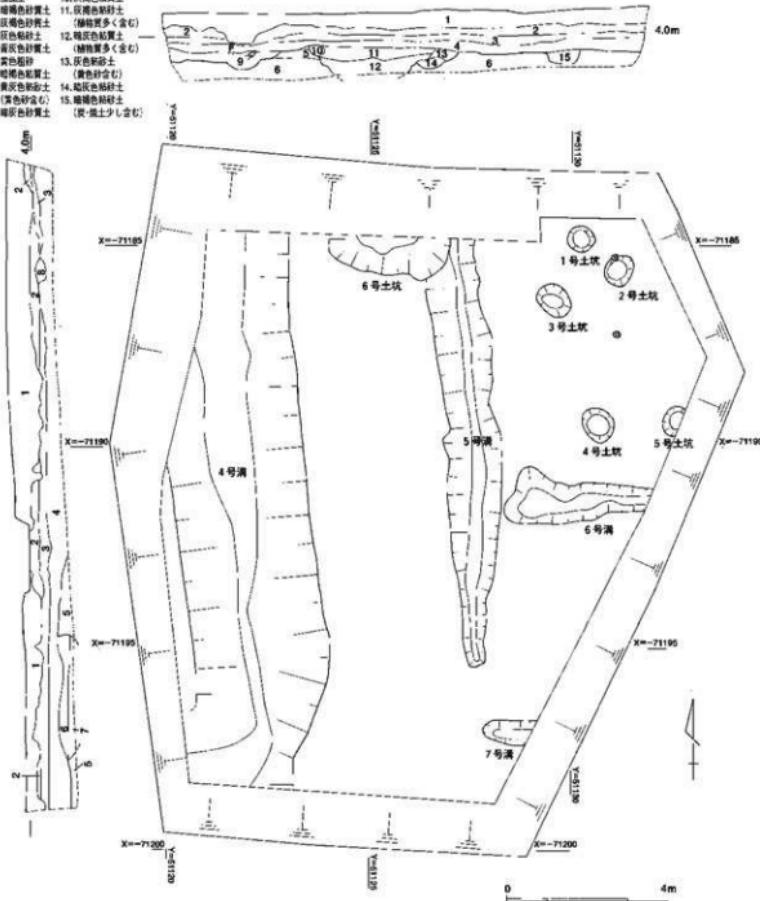
第5章 IV区の調査

第1節 層序と遺構の配置

調査区の層序は、上層より搅乱土（1層）・暗褐色砂質土（2層）・灰褐色砂質土（3層）・灰色粘砂土（4層）の順に堆積し、標高3.3～3.7m前後のところで青灰色砂質土（5層）または黄色粗砂（6層）に達し、その上面が遺構面となる。

遺構は調査区の東端と中央に4号溝と5号溝が南北方向に延びており、5号溝の東側では東西方

1. 搅乱土
2. 暗褐色砂質土
3. 灰褐色の土質
4. 灰色の土質
5. 黄褐色粗砂土
6. 青灰色砂質土
7. 灰褐色粗砂土
8. 黄褐色砂質土
9. 灰褐色砂質土
10. 暗褐色砂質土
11. 灰褐色粗砂土
12. 灰褐色砂質土
13. 灰色砂質土
14. 灰褐色粗砂土
15. 灰褐色砂質土
9. 灰褐色砂質土



第11図 IV区遺構実測図

向に延びる6号溝と7号溝が検出されている。また、調査区の北東側には1～5号土坑があり、北端部には5号溝と重複して6号土坑が営まれる。

第2節 溝状遺構

4号溝 南北方向へと延びるものであるが、南側では西側へとやや方向を変える。検出した長さは14.5m・幅3.0～3.4m・深さ0.5～0.55mである。横断面形は東西の斜面とも緩やかに立ち上がりつておらず、幅に比べて深さが浅いことから上部は削平されているとも考えられる。また、調査区北壁以外では確認できなかったが、溝の中には杭が打ち込まれていたと見られ、本来は1号溝と同様な護岸施設を備えていた可能性もある。

埋土は北側で上層より灰褐色粘土土(1層)・灰色粘土土(2層)・灰色砂質土(3層)・暗灰色砂質土(4層)、南側では灰褐色粘土土(1層)・灰色砂質土(3層)・暗灰色砂質土(4層)の順に堆積している。砂質土と粘土土が交互に堆積していることからすると水路であったと考えられ、護岸施設が想定されることもそうした機能を示すものと言える。また、北側土層観察地点の下層には黄色砂・暗灰色粘土土・青灰色粘土土が互層状に堆積していることを確認しており、4号溝に先立つ溝か小河川があったことも考えられる。

出土遺物はいずれも埋土の上面で検出されており、龍泉青磁碗・肥前系陶磁器・土師質土器・瓦の小片が見られた。

5号溝 南北方向へ延びるものであるが、南端部は調査区内で浅くなつて途切れしており、検出した長さは10.6m・幅1.1～1.4m・深さ0.5mである。北端部は6号土坑によって5号溝が切られ、5号溝の後に6号土坑が営まれたことが明らかである。埋土は中央上層では上層より灰褐色粘土土(1層)・暗灰色粘土土(2層)・暗灰色粘土土(4層)が堆積しており、2層と4層の間に青灰色粘土土(3層)を薄く挟む。北側と南側の土層は上層の1層と2層は同様であるが、北側では2層の下には4層、南側では2層の下に3層が見られる。

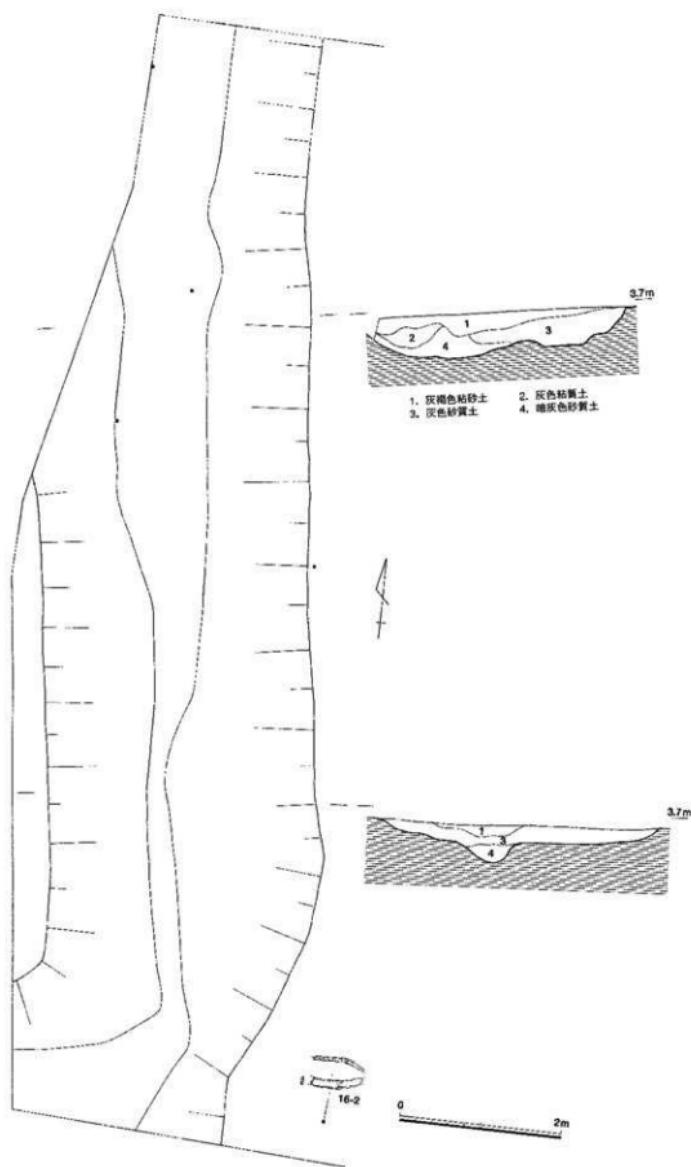
出土遺物には土師質土器・朝鮮・肥前・刀子・砥石がある。第14図1～3は土師質土器皿で、口縁が短く、1・2は外面底部に静止糸切り痕、3は回転糸切り痕が見られる。4は朝鮮碗で見込みと高台に砂目が残る。6・7は肥前系磁器碗で、6は染付である。8は先端が欠損し大きく折れ曲がっているが、刀子の茎部と見られ、銅板が巻かれている。9は細粒花崗岩製の砥石で、上下面と側面の一部に使用痕が認められる。

6号溝 東西方向へ延びるもので、位置関係から見てII区16号溝の西端部と考えられる。検出した長さは3.5m・幅0.6～1.4m・深さ0.25mである。埋土は上層より灰褐色土(1層)・灰色粘土土(2層)・黄灰色砂(3層)・暗灰色粘土土(4層)が堆積しているが、2・3層は中央部付近のみに溝状に見られる。

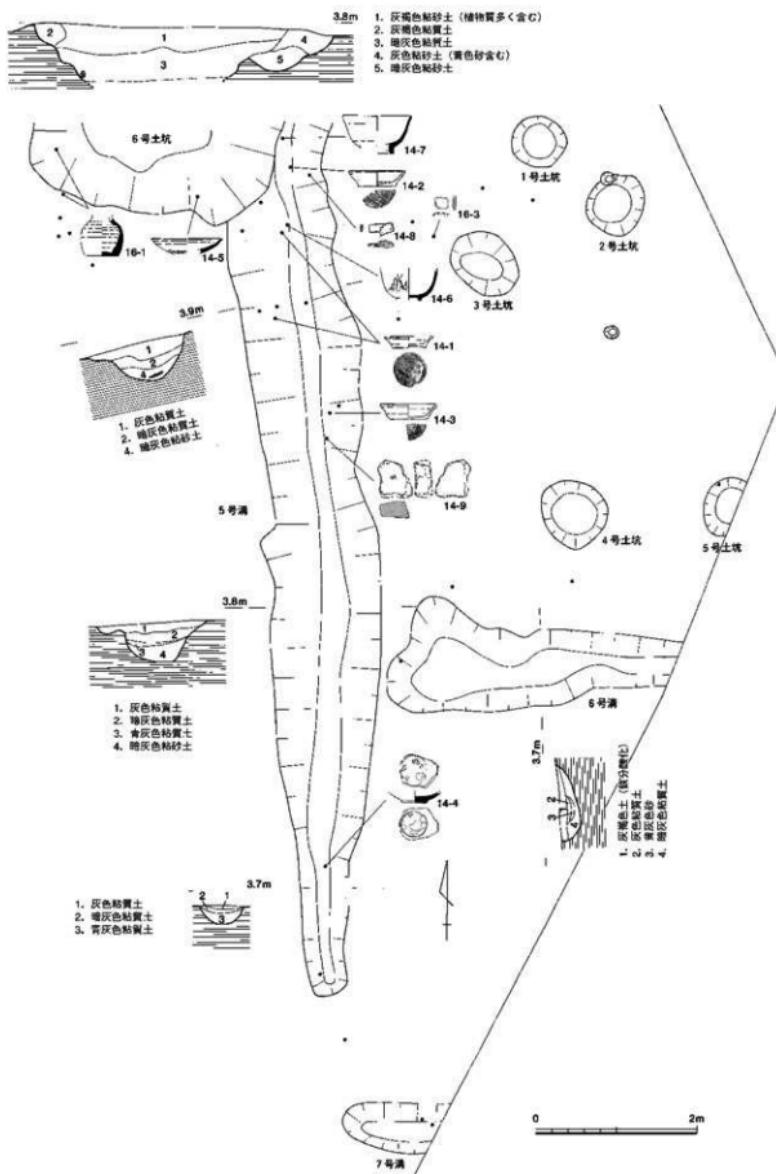
7号溝 東西方向へ延びるもので、位置関係から見てII区15号溝または17号溝の西端部と考えられる。検出した長さは1.3m・幅0.6m・深さ0.15mである。

第3節 土坑

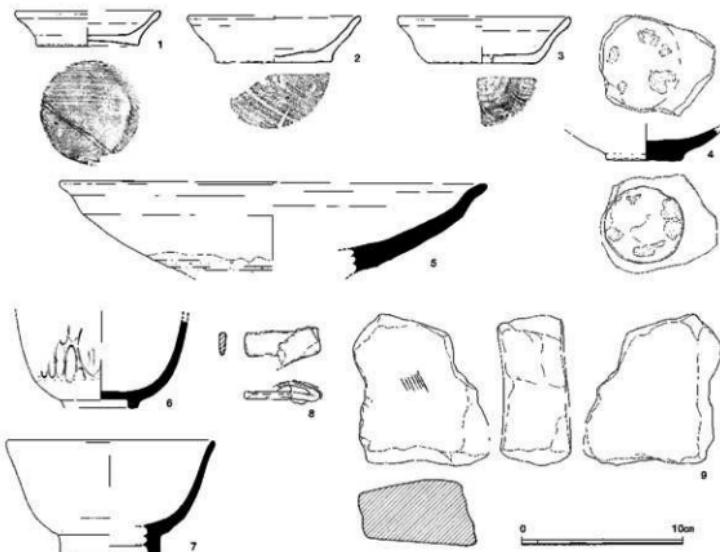
1号土坑 ほぼ円形をした上坑で、径65cm・深さ6cmである。横断面形は浅い皿状で、暗褐色粘土土(1層)が入っている。



第12圖 IV区 4号溝構造実測図



第13図 IV区 5~7号溝・6号土坑遺構実測図



第14図 IV区5号溝・6号土坑出土遺物実測図

2号土坑 不整な円形状をした土坑で、径70~75cm・深さ5cmである。横断面形は浅い皿状で、暗褐色砂質土（1層）が入っている。土坑の北辺部には径15cm・深さ10cm程度の小さなピットが見られる。

3号土坑 不整な楕円形状をした土坑で、径75~90cm・深さ15cmである。横断面形は底面内寄りがやや深くなっており、埋土は暗褐色砂質土（1層）である。

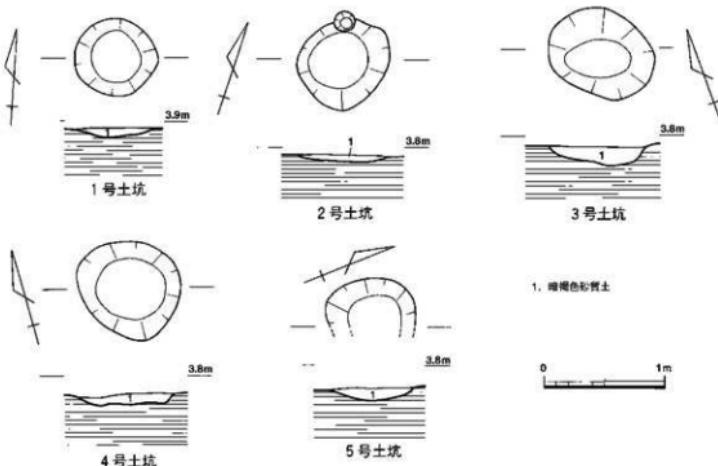
4号土坑 不整な円形状をした土坑で、径85cm・深さ8cmである。横断面形は底面にやや凹凸があり、埋土は暗褐色砂質土（1層）である。

5号土坑 不整な円形状をした土坑で、径70cm・深さ10cmである。横断面形は浅い皿状で、埋土は暗褐色砂質土（1層）である。

6号土坑 調査範囲の制約から全形は不明であるが、南半部の形状から見て隅丸方形状を呈するものと考えられる。長さ3.1m・幅1.3m以上あり、深さは調査区北壁に崩壊の恐れがあったため底面まで完掘していないが、0.65m以上はある。横断面形は土坑の壁が斜めに傾斜しながら立ち上がっている。

埋土は上下2層に分かれており、植物質を多く含む灰褐色粘砂土（1層）と灰褐色粘質土（2層）が上層で、下層には暗灰色粘質土（3層）が見られる。これらは5号溝の堆土である灰色粘砂土（4層）と暗灰色粘砂土（5層）を切っており、5号溝の後に6号土坑が営まれたことが明らかである。

出土遺物としては唐津大皿（第14図5）がある。口縁は緩く外反し、外面には回転ヘラケズリが施されており、見込みには胎土片が残る。

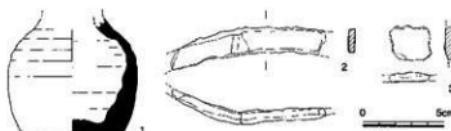


第15図 IV区1～5号土坑実測図

第4節 遺構に伴わない遺物

遺物包含層中の遺物は総じて少ない。青磁・青花・白磁・朝鮮・備前・美濃・石見・肥前系陶磁器の他、土師質土器が見られるが、いずれも小片であり同化できるものはほとんどない。

第16図1は備前的小壺である。よく張った肩部と平底をもち、胴部下半から底部にかけてケズリとナデが見られる。2と3は鉄製品である。2は両端を欠損するが断面形が長方形をした幅1.5cm・厚さ0.4cmほどの棒状のもので、中程から折れ曲がっている。



第16図 IV区遺構に伴わない遺物実測図

第6章 総括

余小路遺跡は、これまでの調査では弥生時代～奈良時代の遺物も僅かに出土しているが、追構・遺物のほとんどは室町時代後半から江戸時代初めにかけてのものである。今回の発掘調査で出土した陶磁器は第2表に示したとおりであり、遺物の量は上師質土器を含めても少量である。特に17世紀以前のものは青磁・青花・白磁などがあるものの少なく、17世紀以降の肥前系陶磁器が比較的多く出土している。

追構では、Ⅲ区1号溝で見込みに砂目のある唐津皿（第7図1～3）と底部に静止糸切り痕をもつ土師質土器Ⅲ（第7図4）が出土している。後者は余小路遺跡の土師質土器分類ではD類とされるものであり¹⁰²、17世紀後半に作られたものと考えられる。Ⅳ区4号溝は時期を明確に示すような遺物は出土していないが、肥前系陶磁器の小片が含まれていることや、Ⅲ区1号溝と同様な護岸施設や規模をもち、これに近い時期のものであろう。また、Ⅳ区5号溝では肥前系磁器（第14図6・7）とともに土師質土器D類（第14図1・2）が出土しており、やはり17世紀後半に機能したものと考えられる。Ⅳ区6号上坑は5号溝を切る関係にあることから、これに後出する。

余小路遺跡Ⅰ区・Ⅱ区の調査結果をまとめた前掲報告書では、追構をⅠ期（16世紀後半から17世紀前半）、Ⅱ期（17世紀前半から中頃）、Ⅲ期（17世紀中頃から後半）、Ⅳ期（17世紀後半以降）に大別している。今回明らかになった追構は上述の検討結果からすれば、Ⅲ期またはⅣ期に属することが考えられ、Ⅲ区1号溝はⅡ区と2006年の出雲市東側調査区で確認された墓域の東側を曲するような位置にあるものと見られる。

追構の機能は、Ⅲ区1号溝とⅣ区4号溝は埋土に砂が溜まっていること、斜面に杭が打ち込まれしがらみ状の護岸施設が想定されることから見て、水路の可能性が考えられる。底面の高さは南北であまり差がなく流れの方向は明らかにできないが、17世紀後半には追跡の北側で高瀬川の普請（1687年）が行われていることも考慮する必要がある。Ⅳ区6号上坑はその大きさや形状から見て、白枝本郷追跡で検出されている6号・8号井¹⁰³に似ており、井戸跡であることが考えられる。

Ⅲ区・Ⅳ区の調査では、掘立柱建物跡や古墓など集落の中心部であることを窺わせる追構は殆どなかったが、過去の調査では確認されていない大形溝が明らかとなつた。建物跡や古墓と同時期であることから、これらは水路であるとともに集落の東西を区画するような機能を有していたことも想定されよう。

現在の限られた調査範囲では集落の全体像を復原することは困難ではあるが、そのためには周辺地域を含めこうした調査の積み重ねが求められる。

第2表 余小路遺跡出土陶磁器構成表

種別	器種	Ⅲ区	Ⅳ区
青花	皿 深州空系	1	0
	碗 漢州窯	0	1
青磁	碗 竹葉窯	0	4
	碗	1	0
白磁	皿 森田D群	0	1
刺野	皿	0	2
備前	壺	0	1
美濃	大目茶碗	0	1
	碗	3	2
	小碗	1	0
	皿	3	1
肥前系陶器	大皿	2	1
	抹鉢	2	0
	袋物	1	1
	不明	0	1
	碗 青磁	1	0
	碗	0	2
肥前系磁器	皿	0	1
	蓋	1	0
	不明	4	2
陶器	不明	0	3
	碗 肥前か季柄	0	1
磁器	皿	2	0
	不明	0	1
瓦質土器	鉢	1	0
	鉢	1	0
石器	不明	0	2
在地座陶器	碗	1	2
	不明	1	0
	合計	26	30

註

- (1)鳥根県教育委員会「中野清水道跡(3)・白枝本郷遺跡」2006年
- (2)出雲市教育委員会「白枝荒神遺跡」1997年
- (3)出雲市教育委員会「井原通跡発掘調査報告書」2002年
- (4)鳥根県教育委員会「余小路遺跡・小畠遺跡」2007年
- (5)前掲註(1)と同じ。
- (6)鳥根県教育委員会「蔵小路西遺跡」1999年
- (7)前掲註(1)と同じ。
- (8)前掲註(1)と同じ。
- (9)出雲市教育委員会「宍丁田遺跡第3次発掘調査報告書」2006年
- (10)鳥根県教育委員会「越原西遺跡」1999年
- (11)出雲市教育委員会「角出跡第3次発掘調査報告書」2002年
- (12)前掲註(4)と同じ。
- (13)前掲註(4)と同じ。

余小路遺跡出土遺物観察表

(1)土器・陶磁器觀察表

種別	調査区	出土地点	種別	器形	寸法 (cm)	高さ (cm)	調整 寸法 (cm)	調整 高さ (cm)	調査・手法の特徴	胎 土	焼成	色 調	備考
7 - 1	Ⅳ	1号溝	唐津	皿	—	—	—	—	外縁に削り凹凸有り、見込みに砂目	常	良好	外縁端開口 内面・底開口	高台内に墨痕! —あり
7 - 2	Ⅳ	1号溝	唐津	皿	—	—	—	—	外縁端開口ナメ・鋸歯状切刃	常	良好	外縁・底開口	
7 - 3	Ⅳ	1号溝	唐津	皿	—	—	—	—	外縁端開口ナメ・鋸歯状切刃	常	良好	外縁・底開口	
7 - 4	Ⅳ	1号溝	土師質土器	皿	—	—	—	—	外縁端開口ナメ・鋸歯状切刃	常	良好	淡褐色	
10 - 1	Ⅲ	土器部	土師質土器	皿	7.0	2.6	—	—	外縁端開口ナメ・鋸歯状切刃	常	良好	淡褐色	
10 - 2	Ⅲ	土器部	土師質土器	皿	—	—	—	—	内面・底開口等風化(上)不明	常	不良	淡褐色	
10 - 3	Ⅲ	土器部	土師質土器	皿	(10.0)	2.5	—	—	内面・底開口等風化(上)不明	常	やや不良	にほい粒	口沿にかなりひきがみあり
14 - 1	Ⅳ	5号溝	土師質土器	皿	(6.0)	3.2	—	—	外縁端開口ナメ・鋸歯状切刃	常	良好	淡褐色	
14 - 2	Ⅳ	5号溝	土師質土器	皿	(10.0)	2.9	—	—	外縁端開口ナメ・鋸歯状切刃	常	良好	灰褐色	
14 - 3	Ⅳ	5号溝	土師質土器	皿	(10.0)	2.9	—	—	外縁端開口ナメ・鋸歯状切刃	常	良好	灰褐色	
14 - 4	Ⅳ	5号溝	鉢	皿	—	—	—	—	外縁端開口・高台無	常	良好	灰褐色	
14 - 5	Ⅳ	6号溝	唐津	大皿	(26.0)	—	—	—	外縁端開口・ケズリ	常	良好	和オリーブ灰 底:黒褐色	
14 - 6	Ⅳ	5号溝	厚底罐	皿	—	—	—	—	外縁端開口・見込みに舟足	常	良好	白色	
14 - 7	Ⅳ	5号溝	肥前罐	皿	(30.0)	7.1	—	—	外縁端開口・高台無	常	良好	灰色	
16 - 1	Ⅳ	備前	小盤	—	—	—	—	外縁端開口ナメ・ケズリのちナメ・ケズリ	常	良好	暗褐色		

(2)金属品觀察表

種別番号	調査区	出土地点	層位	種 別	大きさ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	形態の特徴	備考
7 - 5	Ⅳ	1号溝	—	小刀	5.4	1.1	0.3	薄手の鍛錬品で、3面は欠損。	
14 - 8	Ⅳ	5号溝	—	刀子	4.7	1.5	0.5	鉄製刀子の茎部と見られ、鋼板が巻かれる。先端部は欠損し、折れ曲がる。	
16 - 2	Ⅳ	—	—	小刀	9.7	1.6	0.9	棒状の鉄製品。中程で折れ曲がる。	
16 - 3	Ⅳ	—	—	不規	2.6	2.1	0.6	—	

(3)石製品觀察表

種別番号	調査区	出土地点	層位	種 別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	加工及び使用状況	石 材
14 - 9	Ⅳ	5号溝	—	砕石	9.4	8.0	4.4	453	上下面がよく使用されており、側面は一部に使用面がある。	細粒花崗岩

写 真 図 版



1. 空から見た出雲平野 1967(昭和42)年撮影



1. 調査地近景（手前中央がIV区）



2. 調査地近景（手前右がIII区）



1. Ⅲ区近景（北西から）



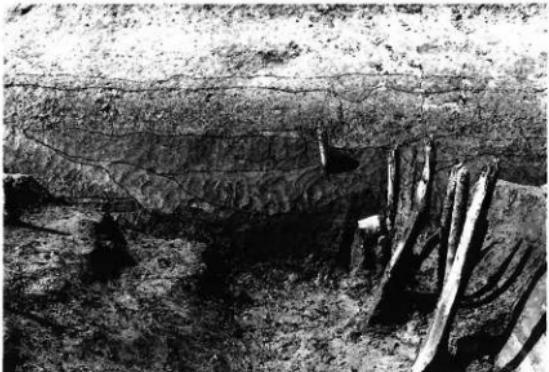
2. Ⅲ区調査後（西から）



1. III区1号溝検出状況（北から）



2. III区1号溝（南から）



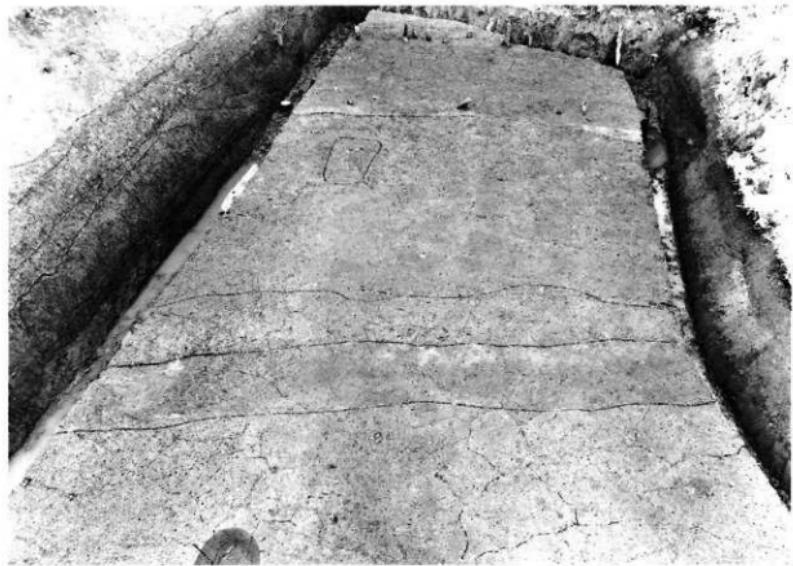
1. Ⅲ区 1号溝調査区
北壁土層（南から）



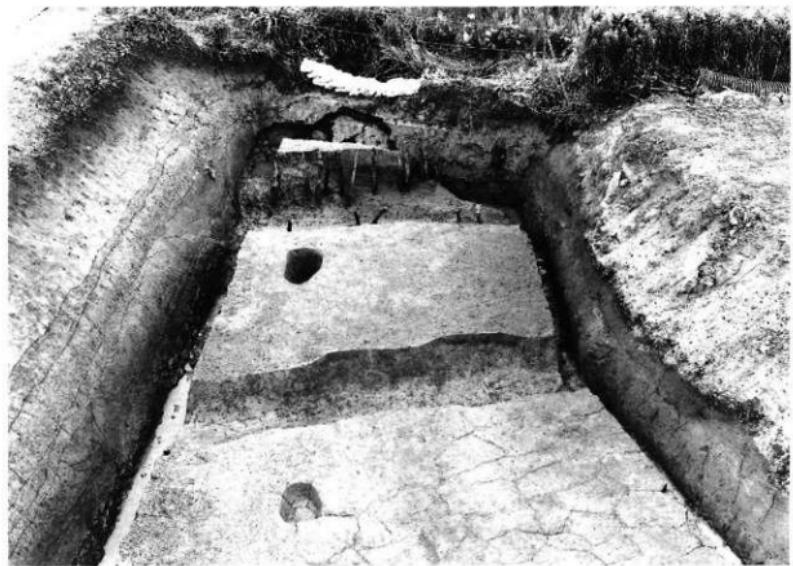
2. Ⅲ区 1号溝中央
土層（南から）



3. Ⅲ区 1号溝
鹿津（第7図1）
出土状況（南から）



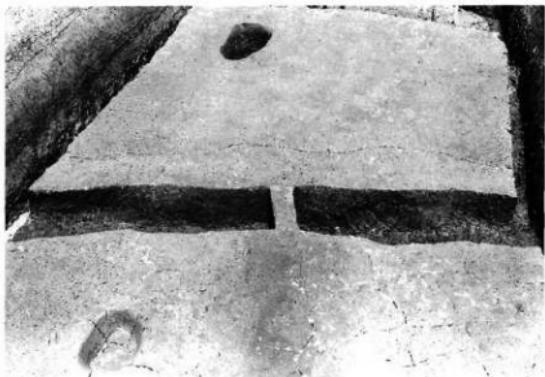
1. III区1～3号溝検出状況（西から）



2. III区1～3号溝（西から）



1. Ⅲ区 3号溝
(北から)



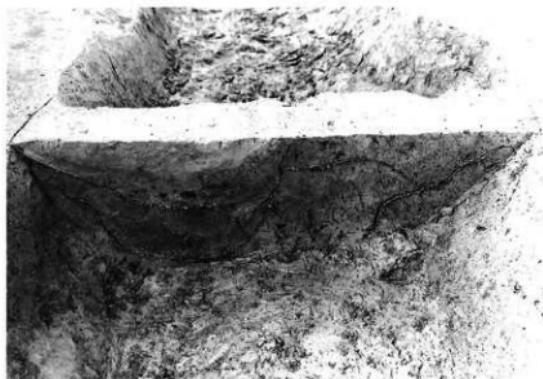
2. Ⅲ区 3号溝
(西から)



3. Ⅲ区 2・3号溝
(北から)



1. III区2・3号溝
調査区北壁土層
(南から)



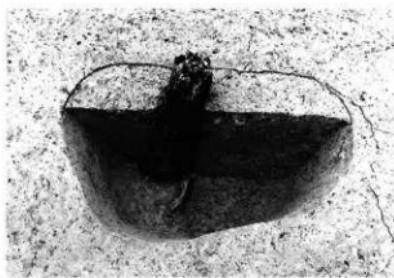
2. III区2・3号溝
中央土層 (南から)



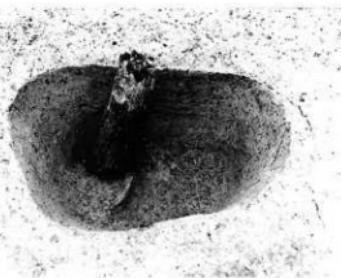
3. III区土器溜
遺物出土状況
(西から)



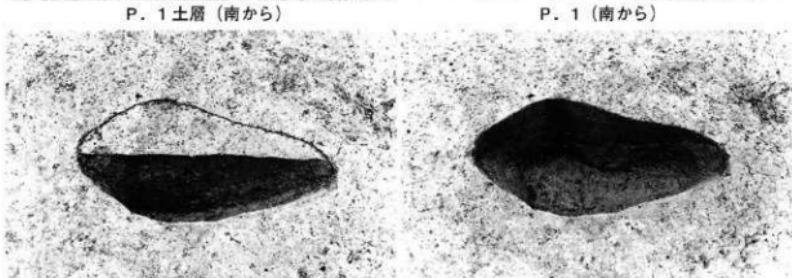
1. III区P. 1~P. 5 (西から)



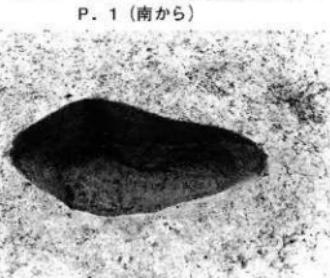
P. 1 土層 (南から)



P. 1 (南から)

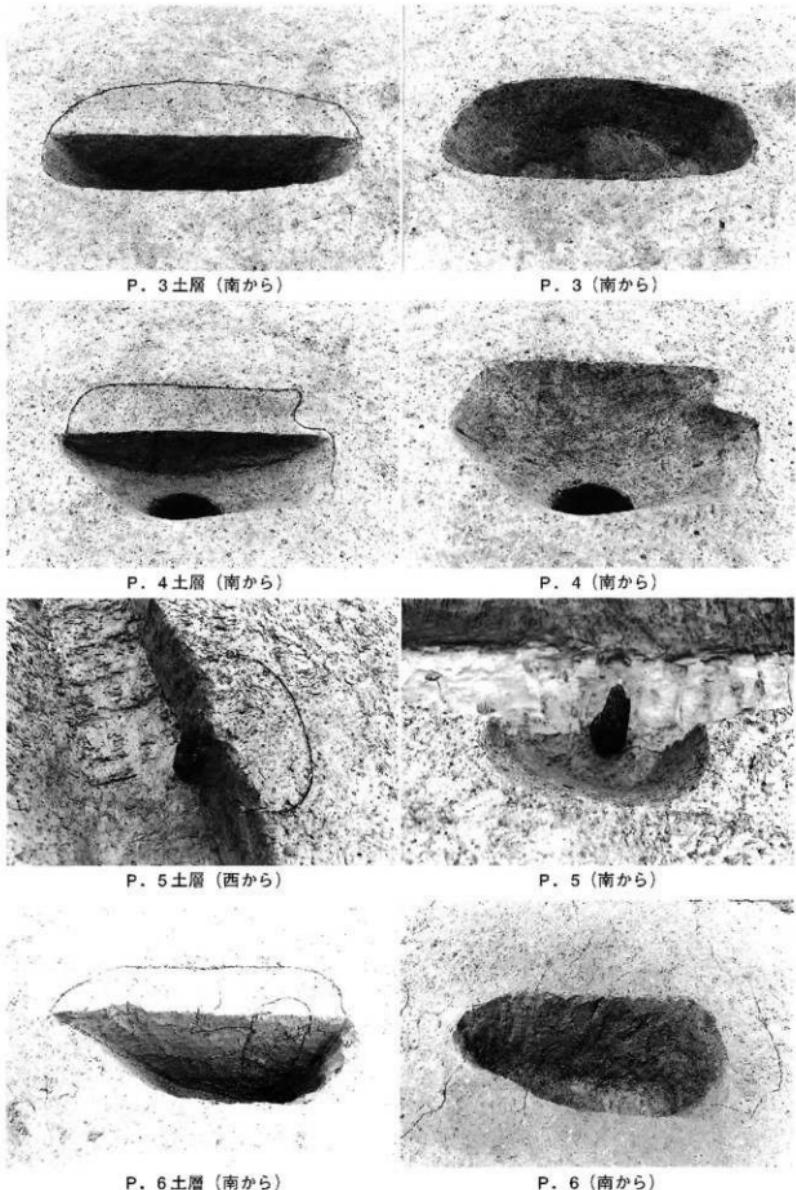


P. 2 土層 (南から)

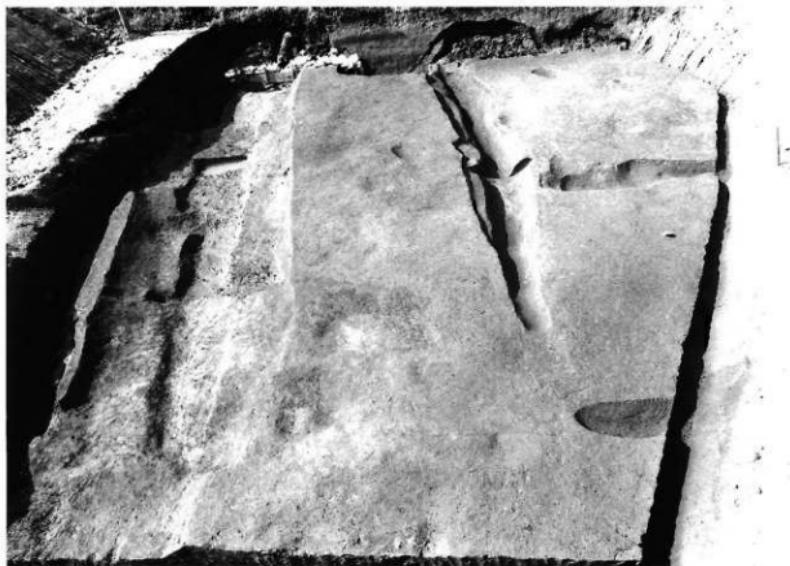


P. 2 (南から)

2. III区P. 1・P. 2



1. III区P. 3～P. 6



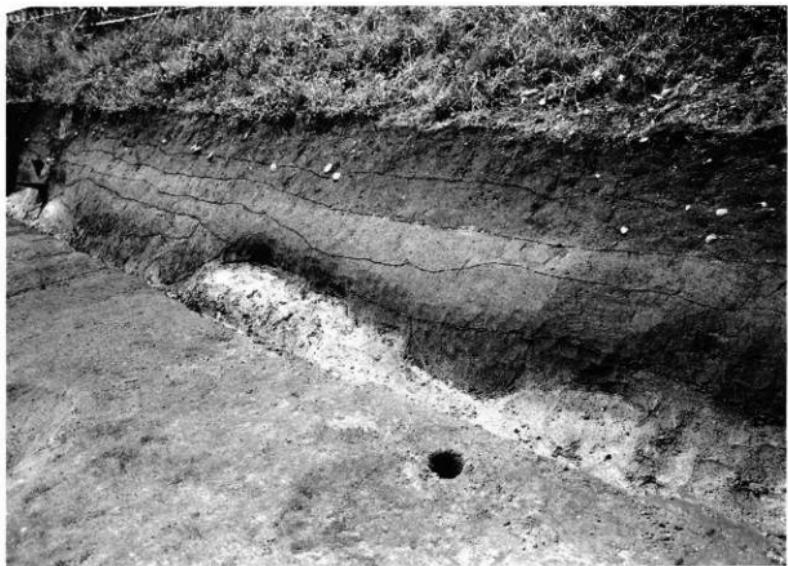
1. IV区調査後（南から）



2. IV区調査後（北東から）



1. IV区北壁土層（南西から）



2. IV区北壁土層（南東から）



1. IV区4号溝検出状況（南から）



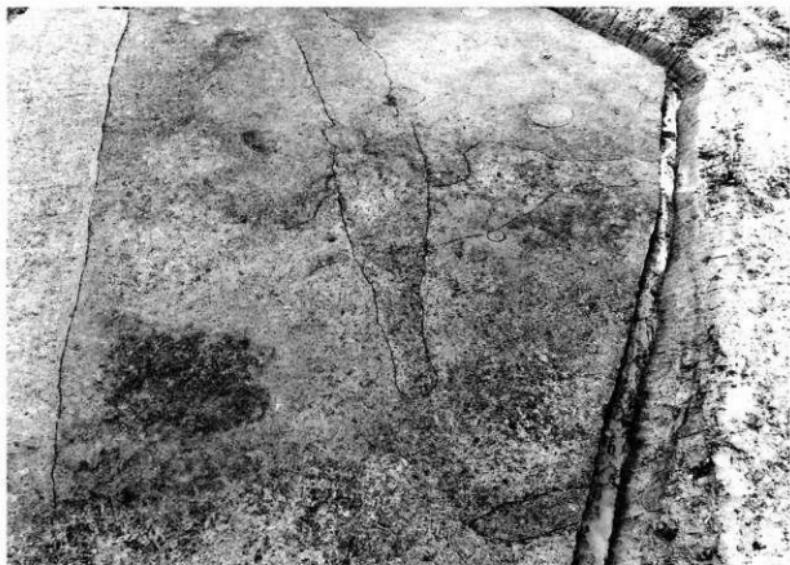
2. IV区4号溝（南から）



1. IV区4号溝北側土層（南から）



2. IV区4号溝南側土層（南から）



1. IV区 5~7号溝検出状況（南から）



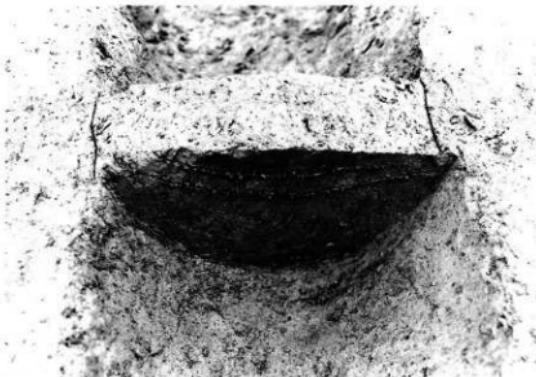
2. IV区 5・6号溝（南から）



1. IV区5号溝
北側土層（南から）



2. IV区5号溝
中央土層（南から）



3. IV区5号溝
南側土層（南から）



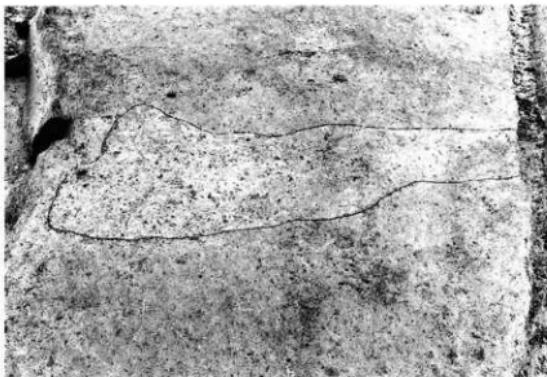
1. IV区 5号溝
第14図2・6他
出土状況（南東から）



2. IV区 5号溝
第14図1出土状況
(西から)



3. IV区 5号溝
第14図4出土状況
(北西から)



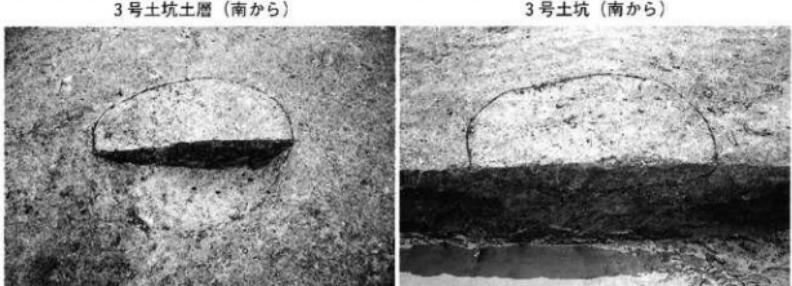
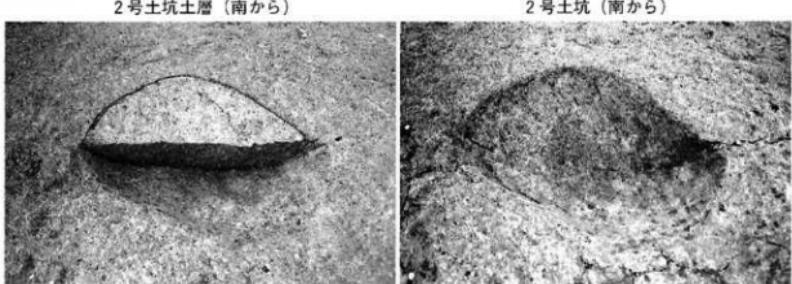
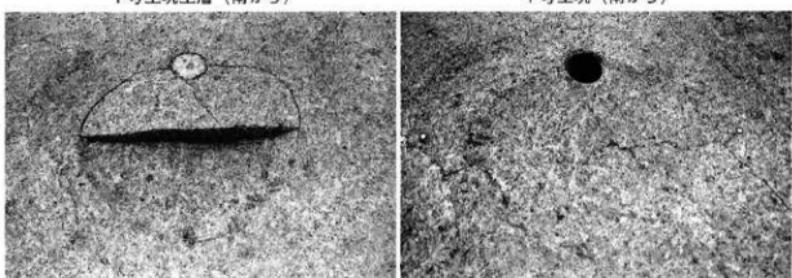
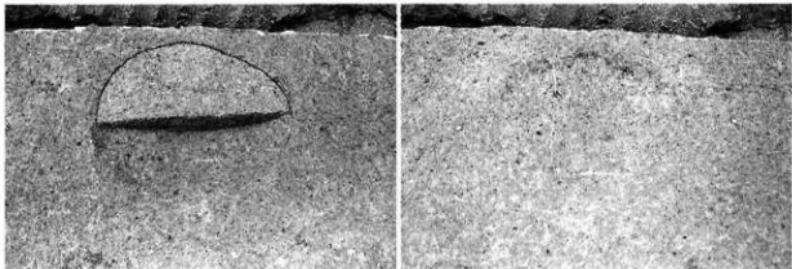
1. IV区6号溝検出状況
(南から)



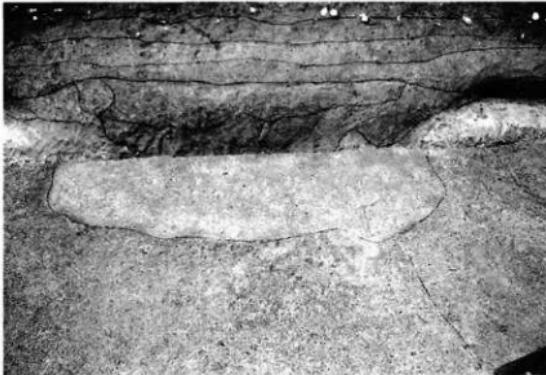
2. IV区6号溝
(南から)



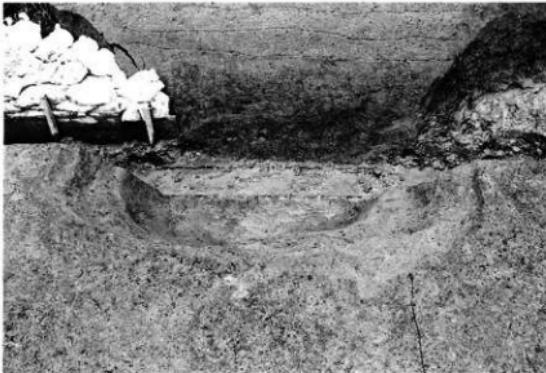
3. IV区6号溝土層
(東から)



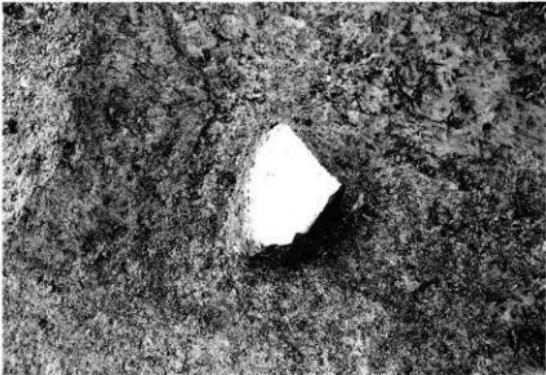
1. IV区 1~5号土坑



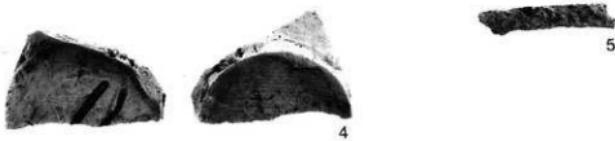
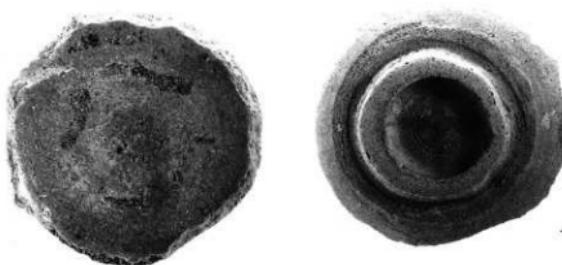
1. IV区 6号土坑
検出状況（南から）



2. IV区 6号土坑
(南から)



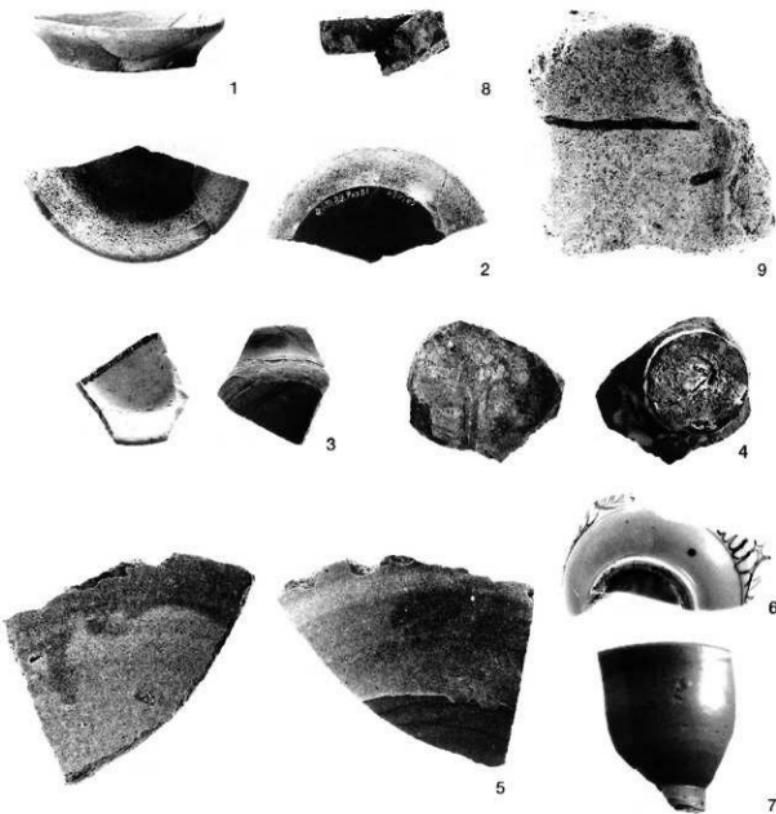
3. IV区 6号土坑
第14図5出土状況
(東から)



1. III区1号溝出土遺物



2. III区土器窓出土遺物



1. IV区5号溝・6号土坑出土遺物



2. IV区遺構に伴わない遺物

報告書抄録

一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書9

余小路遺跡(2)

2008年3月

発行 國土交通省中国地方整備局・島根県教育委員会

編集 島根県教育厅埋蔵文化財調査センター

〒690-0131 島根県松江市打出町33番地

<http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/>

印刷 有限会社米子プリント社

鳥取県米子市旗ヶ崎2218